

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立博物館協議会				
事務局 (担当課)		博物館 電話042-750-8030(直通)				
開催日時		令和5年2月7日(火) 午後2時~午後4時				
開催場所		博物館 1階 小会議室				
出席者	委員	8人(別紙のとおり)				
	その他	0人(別紙のとおり)				
	事務局	5人(佐々木館長、外4人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
議 題		(1) 令和4年度事業実施状況について (2) 令和5年度事業実施計画について (3) 相模原市立博物館活動評価方法(案)について (4) その他				

議 事 の 要 旨

(1) 令和 4 年度事業実施状況について

令和 4 年度の事業実施状況について、事務局より説明を行った。

(浜田委員) 常設展示のリニューアルが進められないのは課題なのではないか。

空調設備の更新が予定されていることは良かった。他市の博物館で、空調設備の故障により資料にカビが生えたことがあった。博物館の保存にとっては心臓部になるので早めの設備交換を心掛けてほしい。

博物館資料などのデジタル化については、本年 4 月 1 日から改正博物館法が施行されるが、その中でも博物館のデジタル化について大きく取り上げられており、補助金もその分増えているので、補助金を受けながら進めていくような検討をしてもらえればよいと思う。

資料 3 の収集資料の中で、歴史部門で軍都関係の資料を集められたという記述があるが、具体的にはどのようなものなのか。

(事務局) キャンプ座間内の旧陸軍士官学校時代に使われていた講堂の建て替えに伴って発見された模造銃である。旧陸軍士官学校の建物は座間市側にあるが、調整の結果、当館で引き受けることになったので、資料として収集した。

(浜田委員) 建物の部材もできる限り保存ができればお願いしたい。

(中里委員) 資料 1 施設管理の光熱費の高騰について、他市の博物館関係の施設では、保存に掛る光熱費に理解が得られにくく予算がとりにくいと聞くが、相模原市ではどうなのか。

(事務局) 光熱費については、ウクライナ情勢等もあり、電気料金、ガス料金もかなり上がっている状況である。今年度の当初予算については、年度の途中で不足の恐れが生じたため、9 月議会で補正予算を計上し、年度内は大丈夫という状況である。令和 5 年度は、電力供給会社との契約更新があり、単価の高騰もあって、来年度についても予算の不足が懸念される場所であるが、必要に応じて補正予算等で手当てをしていく方針である。今のところは博物館の運営に支障が出ているような状況ではない。

(中里委員) たくさんの資料が保存されていて、温度管理や湿度管理を行っているということを市民は知らない。そういったことを SNS 等で発信して、市民の理解を得ることが必要なのではないか。

資料 2、令和 4 年度の講座・講演等が平成 30 年度の比較で、46% まで回復していると読めると思うが、この回復が 100% 近くに、せめて 60% ~ 70% 以上になるために、今後はどうしていくのか、当時 (H 3 0) は抽選などではなく参加できたので、講演なども多くの

方が聞けていたと思う。ポテンシャルはあるのに聴けない市民がいて、それで46%だと残念である。今後、オンライン化や大人数での開催が難しいようであれば、素晴らしい講演を世に広めるほかの手段にシフトしていけるような視点があればいい。これについて何かプランがあるのか。

(事務局) 対面の講演会・講座を数えると46%になってしまうが、リモートで行ったものやYouTubeを使ったものを加えていくと、もっと数値が大きくなる。しかし、それを同等に数えるのもどうかということで加えていない。コロナ禍前は200人の定員だったものを100人に絞っていることも多く、数字には正直に出ているというのが実際のところ。すぐには200人定員でということにはならないだろうが、この数年間でリモートやオンラインというものにシフトせざるを得なくなった結果、技術的な面を徐々に会得しつつあるため、今後はオンラインも活用しながらということも考えていきたいが、外部講師に依頼する場合は、オンラインでやる場合と対面でやる場合で、準備する資料の質も変わってくるため、そういった負担を講師にお願いできないこともあり、すべてオンラインでということは難しい。

(大貫委員) 資料3、調査研究で、地質分野と生物分野はテーマをあげ、そのテーマにどういった方法で調査をし、その結果をどういう方法で社会化したのかということが明確に載っていて書き方がいいと思った。ほかの分野は、調査のテーマや調査方法、5年度の予定が見えない。新しく作成した資料ということなので、来年度は研究テーマをあげて、進行状況を記載することで、学芸員が調査研究をして学会や県などで発表しているということが市民に見えるのではないかと。

(事務局) 生物分野と地質分野の学芸員は着任して長いため、経験の蓄積もあり、研究テーマ等が比較的明確になっているが、ほかの分野については、着任もしくは異動してから5年以内の職員であるため、研究テーマ等が明確になっていないところがある。その点に関しては、貴重なご意見として、学芸班の中でも共有したい。

そういった意味でも、学芸員の育成をOJTで進めていったり、段階を追ってこういうことができるようにという目安のようなものを示すことができるとよいと考えている。

(岩野委員) 博物館の機能の3つのうち、企画・展示については一般の人にも私たちにもわかりやすく示すことができるが、残りの2つ、資料収集保存、調査研究については、見えにくい部分であり、資料3の枠の中ではあまりにも一般論過ぎているため、具体的な数字や方向性が明記さ

れていると、学芸員の仕事を理解することができ、学芸員の仕事をもっと見えてくるのではないか。

資料2のグラフを見ると、コロナ禍の後、立ち直りつつあるのが見える。これを見れば細かい数字を見なくても一目で8割程度戻っていることが分かる。下段の比較について5年間とした根拠は。来年度以降はどうするのか。

(事務局) 令和元年度末から休館期間が始まっているため、それ以前の1年間を通して開館した直近の年度が平成30年度である。来年度も比較する場合には同様に平成30年度がベースになると思う。

(藤田委員) 今年度、市内の小学校4年生の来館学習が復活した。来年度12月から2月まで工事の関係で休館になるということだが、小学校の見学はスケート教室と博物館見学がセットで行われる。そのため、例年11月から2月までの4か月間で計画をするのだが、11月の1か月しかないということで校長会で話題になっている。工事の期間をずらすことは難しいとは思いますが、来年度の調整について早くしてほしい。

(事務局) 1月から休館にできないか調整していたが、1月からの工期にする年度をまたいでしまう危険性があるということで営繕部局からの助言があった。校長会の校外委員の校長先生方とは秋に一度面談をさせてもらい来年度の計画について話をしているので、残念ではあるが、博物館の見学をマストだと考えているところを早めに入れていただくような工夫をしていただきたい。見学できるのが一部の学校になってしまい申し訳ないが、よろしくをお願いしたい。

(篠田委員) 資料2の講座・講演会等について、今年度PTAの家庭教育事業で博物館とコラボした講演会の動画配信を見せていただいて、先ほど対面だと人数が多く、オンラインでできたらいいという話もあったが、PTAで動画視聴した人数を見ると、動画視聴より対面の方が、参加率が大変良く、せっかく作ったのに動画視聴数が伸びないという結果が出た。博物館とのコラボで実施した講座は、教材としてもとてもいいものなので、体育館などで、子どもたちにも、保護者にも見てもらいたいと思えるものだった。これからもオンラインでというのもあると思うが、視聴数などを見て比較検討していってほしい。

(事務局) この動画は陽光台小学校からの依頼で実現したもの。博物館でもPRさせてもらっていた。残念ながら1月末で終了してしまっただが、公開を続けても良かったのではないかと思った。見た方からは大人が見ても楽しかった、低学年の子でも見ていて面白かったなど、好評をいただいたところである。

(2) 令和 5 年度事業実施計画について

事務局より令和 5 年度事業実施計画について説明を行った。

(岩野委員) 「プラネタリウムウィンターコンサート」は目新しく映った。また、「わお！な生きものフォトコンテスト写真展」についても今までとは違う形で、目から鱗が落ちるような面白さを感じたので、来年度も積極的に企画してほしい。

(事務局) ウィンターコンサートは、市民会館との連携事業で実施した。昼間に市民会館で「ランチタイムコンサート」で演奏された方々が夕方、博物館で演奏した。

(岩野委員) プラネタリウムの中でコンサートを行い、みなさんが聞けるというのは、意外とありそうでなかったユニークな企画だと思う。演奏曲についても宇宙や星に関連した曲で、非常に良い企画で、すぐに満員になったということも納得できる。ぜひ継続してもらいたい。

(事務局) 令和 5 年 10 月から、市内のプールや体育館、プラネタリウムなどの利用料が、市内在学・在住の中学生以下は無料になる予定であることが発表された。

これまで博物館は 4 歳未満が無料で、4 歳・5 歳は子ども料金をいただいていたが、未就学児はプラネタリウムだけではなく市内の公共施設の利用料が無料になる。少子化対策の一環、また小学校入学に合わせて転居を考える家庭が多いので、相模原市に転入してもらおうきっかけとしてもらうことも目的としている。

(藤田委員) 休館中に小学校等への出前授業などを実施してもらえると嬉しい。

(岩野委員) 休館期間については決定なのか。

(事務局) 予算と連動しているため、議会で承認されれば決定となる。

(岩野委員) できるだけ早めに発表してほしい。

(3) 相模原市立博物館活動評価方法 (案) について

事務局より相模原市立博物館活動評価書の評価方法について説明を行った。

(岩野委員) 評価について、「評価していただきます」とあるが、学芸員あるいは職員が自己点検評価するのか、協議会委員が評価するのか。

(事務局) 評価は協議会委員にお願いしたい。

(岩野委員) S ~ C で評価項目ごとに評価とあるが、評価は大項目で評価するのか、小項目ごとに評価するのか。

(事務局) 評価については小項目ごとを想定している。

(岩野委員) 評価したところ、S で揃った評価であればよいが、ばらけた場合はどう決めていくのか。

(事務局) 多数決により決定したい。拮抗した場合や同数になった場合は最終

評価に経過を追記する形式としたい。

(岩野委員) 具体的なことが何も書かれておらず今の説明にもないため、どこまで反映させるのかといったことが分からないので、これでよし、とすることは難しい。

この評価案でやりたいというだけではなく、やってそれをどういう風に評価して、どういう風に提示して反映させるのか、というところまで明示してほしい。

(事務局) たたき台として出したものであるため、いろいろな意見を出してほしい。

(岩野委員) S～Cまでのランクを付けるということだが、これだけの小項目を委員が全部付けきれぬのか、付ける尺度として記載されていることがあいまいで、主観で評価せざるを得ないが、本当にそれでいいのか、勇気のいる仕事になってしまう。

(大貫委員) 評価するということなので、目標を設定し、その目標について担当者が自己評価をあげる。委員は目標と自己評価を見て評価をする。その結果を担当と場合によっては館長も含めてヒアリングをした結果が、今後の方向性として出てくる、という形の評価方法が博物館ではよく使われている。

目標がないと評価のしようがない。

具体的なことで言うと、収蔵資料の充実となると、例えば偶然手に入ったもの(いただいたもの)で収蔵点数が増えたということではなく、博物館の前提であるコレクションを作るということである。コレクションを形成しないのは、博物館ではない。

(岩野委員) 前半部分は評価の具体的な方法について話していただいたが、そういったものがないと評価するのは難しい。もう少しもんでから提示してもらいたい。

(事務局) 今回提示した案に至る前には様々な案があったが、全項目を効率よく評価する方法として提示した。実際、他館でも3段階、4段階、5段階で評価を行っているところもある。

定量評価は引き続き行っていくので、数字で表せないところをこの定性評価で表すため、定量評価と組み合わせることで具体的な数字を入れなくてもいいのではないかと考えた。

委員からの意見を踏まえて改めて提示させてもらいたい。

(岩野委員) 定量評価とのバランスで、どう振り分けるのか、例えば定量評価で具体的な数字を出してもらい、定性評価では相対的な評価をするなど、色々な方法があると思うので、定量評価をどうするかも含めても

う一度提示してもらいたい。

(事務局) 定量評価に関しては、これまでの形式を踏襲していき、定性評価に替わるものとして今回提示した。具体的な数値目標は掲げない。説明不足で申し訳ないが理解してもらいたい。

スケジュールについて、前年度の評価を秋に提出しなければならないため、秋までには評価書をまとめなければならない。現行の評価方法では、毎年評価を行うことは労力的に無理があるため、今回の案の提示となった。評定尺度を用いるのも、なるべくわかりやすく簡略化する一つの案である。

(岩野委員) スケジュール的にも非常にタイトであるため、簡略化していきたいということは理解した。

評定尺度を用いる評価方法については反対意見はないようである。事務局からもう少しわかりやすいものを提示するということでのよしいか。評価方法についても少しもんでいく時間はあるのか。

(事務局) 次の協議会が7月ごろになるため、その時に案を出させてもらい秋の協議会で評価してもらおうということになる。

(岩野委員) 対面でなくてもメールでのやり取りでいいのではないか。

(事務局) 今日いただいた意見をもとに、会長と調整しながら案を提示させてもらい、評価方法を決めていく。

(岩野委員) なるべく早い時期に直した案を送ってもらいたい。

(浜田委員) 根本的なことであるが、誰のための何のための評価なのかを明確にしてもらわないと、どういう評価項目にしていいいか見えないため、明確にってもらうことで、定性評価と定量評価で何を評価するのか決まってくるのでは。評定尺度を用いた評価方法はいろいろな博物館で行われているが、自己評価を外部有識者が判定した場合にその評価でいいのかという評価方法をとっていることが多いので、やり方を調べてみてはどうか。

市民の立場からの評価事項も検討してほしい。

(4) その他

(事務局) プラネタリウムの視察観覧が可能なので、ぜひ観覧してほしい。

次回は令和5年7月ごろ開催予定。

以上

相模原市立博物館協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	藤田 博己	市立大野台小学校校長		出席
2	五十里 雅子	県立相模原弥栄高等学校校長		欠席
3	大貫 英明	市文化財研究協議会副会長		出席
4	篠田 春美	市 P T A 連絡協議会副会長		出席
5	吉川 恵美	市女性学習グループ連絡協議会代表	副会長	出席
6	岩野 秀俊	前日本大学生物資源科学部特任教授	会 長	出席
7	浜田 弘明	桜美林大学人文学系長・教授		出席
8	藤本 正樹	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所副所長		欠席
9	山本 幸奈	公募委員		出席
10	中里 真紀子	公募委員		出席